

確認プリント解答【中学校2年生】数と式

①	(1) $3y$	(2) $-4x + 8y$	(3) $5x - y$
	(4) $2y$	(5) $2ab$	

②	(1) 18	(2) $y = 2x - 5$	(3) $y = \frac{-x+1}{4}$
	(4) $h = \frac{s}{a}$	(5) $a = \frac{2S}{h}$	

③	(1) $x = 5, y = 5$	(2) $x = \frac{1}{2}, y = \frac{3}{2}$	(3) $x = 5, y = 13$
	(4) $x = 4, y = 1$	(5) $x = 2, y = -3$	

④	(1) $\frac{b}{a} \quad g$	(2) $ア$
---	---------------------------	---------

⑤	$n + 1$
---	---------

⑥	(1) $x - y = 3$	(2) $エ$
---	-----------------	---------

⑦	(1) $ウ$	(2) $ウ$	(3) $\begin{cases} 3x + 2y = 460 \\ 4x + 3y = 630 \end{cases}$
---	---------	---------	--

⑧	$オ$	$500x + 300y = 1900$
---	-----	----------------------

⑨	$ウ$
---	-----

⑩	ウ	$200x + 120y = 2160$
⑩	イ	$x - y = 6$
別解	エ	$200x - 120y = 1440$

⑪	(1)	(解答例1)
		$4(n - 3)$ $n - 3$ は整数だから、 $4(n - 3)$ は4の倍数である。 したがって、はじめの数としてどんな整数を入れても、計算結果はいつでも4の倍数である。
	(解答例2)	
		$4n - 12$ $4n$, 12 が4の倍数で、4の倍数の差は4の倍数だから、 $4n - 12$ は4の倍数である。 したがって、はじめの数としてどんな整数を入れても、計算結果はいつでも4の倍数である。
	(2)	
		・アを選択し、4, 2 のいずれかを解答 ・イを選択し、2 と解答

(解答例1)

イを選択し、

通常料金 a について、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを表す式に、 a が含まれていないので、通常料金が変わっても、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかは変わらない。

⑫

(解答例2)

イを選択し、

通常料金 a について、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかを求める計算過程で a がなくなるので、通常料金が変わっても、団体料金の10人分が通常料金の何人分にあたるかは変わらない。

(1) ① $2n+3$ ② 3

(3) エ

(2)

(解答例)

$$5(2n + 5)$$

$2n + 5$ は中央の奇数だから、 $5(2n + 5)$ は中央の奇数の5倍である。

したがって、連続する5つの奇数の和は、中央の奇数の5倍である。

⑬

